

平成27年10月15日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

平成27年度 第2回 地域経済活性化部会

◆ 10月15日(木)、美しい多摩川フォーラムの平成27年 第2回 地域経済活性化部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

- ・開催日時：平成27年10月15日(木) 15時～16時半
- ・開催場所：立川グランドホテル 3F サンマルコ
- ・出席者：部会長、運営委員、アドバイザー、会員等

◎ 地域経済活性化部会の概要

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 経過報告 ※はビデオ放映

- (1) 美しい多摩川フォーラムの森(青梅) 下刈りイベント開催(7/4)【資料1】
- (2) 多摩川っ子(第8号) 発刊(7/6)【資料2】
- (3) 多摩川“水” 大学講座開催(7/17、9/18)
- (4) 「粕江古代カップ第25回多摩川いかだレース記念大会」参加(7/19) ※【資料3】
- (5) 第8回・子どもカヤック体験教室開催(7/25)【資料4】
- (6) 「東北・夢の桜街道推進協議会」平成27年度総会開催(7/22 青森県)【資料5】
- (7) 東京都・地域資源発掘型実証プログラム事業企画案採用決定(7/30)【資料6】
- (8) 多摩川1万人の清掃大会参加(8/2)【資料7】
- (9) 第7回・炭焼き体験と水辺の交流会開催(8/21)【資料8】
- (10) 第3回・大人のカヤック体験教室開催(8/29)【資料9】
- (11) 第2回“多摩川酒蔵街道”のキャンペーンについて(9/1～)【資料10】
- (12) 第2回・美しい多摩川フォト教室開催(9/18)【資料11】
- (13) 東急百貨店より第6回「ココエコチャリティー」の寄付金贈呈(9/29)【資料12】
- (14) 第8回・たまりパー50キロ命名記念・RUN&WALK開催(10/4)【資料13】
- (15) 「東北・桜サミット開催」に関する記者発表(10/5)【資料14】
- (16) 多摩川“水” 大学講座開催(10/16、11/20)
- (17) 第7回・美しい多摩川クリーンキャンペーン開催(11/7、11/14)【資料15】
- (18) 第8回・多摩川子ども環境シンポジウム開催(12/5)【資料16】

(19) 御岳・冬物語開催 (12/11) 【資料 17】

4. 意見交換

- (1) 東京都事業案件 (多摩川カヌー駅伝等) の取り組みについて
- (2) 美しい多摩川フォーラム・10周年 (平成29年度) 記念事業について
- (3) その他

5. 部会長総括

6. 閉会

1. 開会 (初参加者紹介および資料確認)

(事務局)

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム平成27年度第2回地域経済活性化部会を始めさせて頂きたいと思います。始めに当フォーラムのテーマソングである「多摩川の歌」の普及策の一環として、本日は混声四部合唱バージョンをお聞き下さい。本日はじめて部会にご出席される方をご紹介します。

(公益財団法人 東京市町村自治調査会 参与 石井 恒利 様)

石井と申します。直前まで東京都市長会事務局の事務局長をやっておりました。その前は東京都の都市整備局におりまして、中央線の連続立体交差や、南北道路の仕事をやっておりました。多摩川に関して言えば、多摩川の沿道にサイクリングが出来るようなルートを作りました。羽村市から羽田の河口まで50キロありますが、距離表示と案内を作りました。そういった意味で、今後も関わりが沢山あるだろうと思いますので、何かお役に立てることがあればよろしく願いいたします。

(稲城市 都市建設部 土木課 緑と公園係 課長補佐 宮澤 浩介 様)

宮澤と申します。私どもは主に公園と緑地、稲城水辺の楽校を所管しており、多摩川フォーラムの窓口を務めております。稲城市では、市内にある観光資源をいかに発掘し、地域経済を活性化していこうかという課題を持っております。その中で、稲城市の北を流れている多摩川をいかに活用していくか、具体的な案はまとまっていないのですが、本日お話を伺い、情報を収集させていただこうと思っております。本日はよろしく願いいたします。

(大田区 観光・国際都市部 観光課 観光振興担当係長 佐川 博 様)

佐川と申します。本来であれば課長が出席するところですが、代理で参加させていただきます。大田区は多摩川の河口にあります。区としましては、水辺の観光も大きな資源ととらえておりますので、皆様の意見をお聞きし、今後の観光に役立てていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(昭島市 企画部 企画政策課 企画政策係長 進藤 聡 様)

進藤と申します。昭島市は、多摩川の中流域に位置しておりますが、現在、総合戦略を策定しております。昭島市では、地下水100%の水道水を使っており、多摩川フォーラムの活動に協力していきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(青梅市 まちづくり経済部 商工観光課 観光係長 遠藤 康弘 様)

遠藤と申します。本来であれば課長が出席するところですが、別の会議が入ったため、代理で出席させていただきます。青梅市は多摩川の上流に位置し、多摩川を重要な資源と考えております。今回の議題の中でカヌー駅伝があり、皆様のご意見を伺いたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(富国生命保険相互会社 立川支社 市場開発課長 梶田 俊樹 様)

梶田と申します。私どもは立川に支社があり、地域のために何か出来ないかと考えていたところ、青梅信用金庫さんから多摩川フォーラムをご紹介いただき、参加させていただくことになりました。まずはこの部会で色々と勉強させていただき、11月7日のクリーンキャンペーンにも参加させていただく予定です。今後ともよろしくお願いいたします。

2. 部会長挨拶

(薮田部会長)

本日司会を務めさせていただきます、中央大学の薮田です。前回7月2日(木)に第1回地域経済活性化部会を開催し、今回は第2回目です。その間の活動に関する経過報告を事務局から説明いただき、意見交換では、多摩川フォーラム設立10周年イベントのアイデアを皆さんからいただきたいと思っておりますので、活発なご意見を願いたします。ここで何か結論が出るというよりは、むしろ結論の方向に向けて、様々な意見をいただきたいということです。個人的な話ですが、この8月に知床の2町村を訪れ、エコツーリズムの推進委員会に参加してきました。地元の方は相当燃えていて、活発な活動をしていて、感銘を受けて帰ってきました。地域の人たちだけではなく、行政や業者等の専門知識を持った方々から意見をいただくことが重要であると感じました。この報告書をまとめたいと思っております。7月から9月にかけての活動は、なんといっても天候が大事です。経過報告の資料を見ると、全て晴れています。日本では、「日頃の行いが悪いと雨が降る」と良く言いますので、私自身も日頃の行いを良くして、今後の活動に支障をきたさないようにしたいと思います。それでは経過報告に移ります。事務局から説明をお願いいたします。

3. 経過報告

(事務局)

それでは、経過報告に移ります。前回6月の活動部会以降の当フォーラムの活動につきましては、お手元の資料の表紙に時系列でお示ししております。それでは、はじめに(4)番をビデオにまとめておりますので、前方のスクリーンをご覧ください。

— ビデオ放映 —

経過報告を続けます。

(6) 「東北・夢の桜街道推進協議会」平成27年度総会開催(7/22 青森県)【資料5】

- ・ 【資料5】をご覧ください。本年7月22日、平成27年度総会が青森県青森市で開催され、平成27年度も、当フォーラムより同協議会へ2,000,000円の拠出金が承認されました。

(7) 東京都・地域資源発掘型実証プログラム事業企画案採用決定(7/30)【資料6】

- ・ 【資料6】をご覧ください。多摩川流域の魅力を改めて発見し、今後の観光等に役立てていきたいということで、東京都が公募型で企画案を求めました。前回の部会では、応募したという話をさせていただきましたが、7月30日に、東京都産業労働局観光部から、複数市が絡む案件としては、当フォーラムの企画案1件のみが採択されたと連絡を受けました。企画の概要を説明しますと「生態系保持空間など自然にあふれる多摩川で、人気の“カヌー競技”と多摩川流域住民を守る“堰”にスポットを当て、“堰”を中継地とする「多摩川カヌー駅伝大会」イベントを実施し、出場者と観戦者の旅行誘致を図るとともに、多摩川の“堰”の歴史・文化から多摩地域全体の伝統的文化まで学ぶことができる旅行商品の造成を見据えたモニター・バスツアーを実施する」という内容です。要は、多摩川の堰に光を当てつつ、そこで多摩川カヌー駅伝をやるということです。今までは、“堰があるからカヌーが出来ない”ということが定説でしたが、私どもはそれを逆手に取り、堰を駅伝の中継地とすることで、駅伝レースが出来るのではないかとこの発想で提案しました。堰が中継地になる以上、堰が歴史上どういう役割を果たしてきたかをパネルで紹介します。堰は東京都の水道局が管理しているので、東京都のPRにもなるかもしれませんが、堰を上手く活用し、カヌー駅伝をすることです。カヌー自体は、沿川の6市対抗戦になると思うのですが、観戦客を対象としたバスツアーも催行します。当初の案では、御岳武蔵神社で「多摩の物語」の「語り会」を開催し、山上の宿坊に泊っていただき、晴れていれば星空を眺めていただくことも考えていたのですが、残念ながら、来年1月中旬～3月

末にかけて、御岳山ケーブルカーの巻上設備が19年ぶりにリニューアルされ、運行停止になってしまうとのことで、今回に限っては開催できません。代わりに、あきる野の龍珠院で「語り会」を開催することにしました。語り会終了後は、多摩川酒蔵街道のいくつかの酒蔵を巡ることも考えています。駅伝のゴール会場では表彰式や地域の物産も販売し、地域を盛り上げていこうと考えています。この件は企画案として採択されましたが、これに基づき、東京都では、8月下旬に広告代理店や旅行会社を中心に事業の実施主体を募集したところ、一昨日、JTBの案件が採択されました。JTBは前から関心を持っており、相談を受けていたので、それなりのサポートはしていたのですが、幸いJTBが請け負う事となりましたので、来年3月5日（土）はカヌー駅伝を実施し、翌日6日（日）にはモニター・バスツアーを実施する予定で、東京都のモデル事業として対応させていただく予定です。なお、この実績やノウハウをもとに、2020年までに多摩川下流までカヌー駅伝が出来るかどうか検討していくことを展望しています。いずれは「東の東京マラソン、西の多摩川カヌー駅伝」と言われるまでに発展すれば良いなど、夢を持ちながら進めていきたいと思っています。この件については、後ほど意見交換で、多摩川フォーラム設立10周年記念事業について意見を伺う場がありますので、皆様のご意見を伺えればと思っております。

(9) 第7回・炭焼き体験と水辺の交流会開催 (8/21) 【資料8】

- ・ 【資料8】をご覧ください。毎年、青梅市さんと連携して開催しておりますが、非常に人気のあるイベントとなっております。本日もご出席をいただいております、東京都西多摩建設事務所の蛭間さんにもご来賓としてご出席いただき、ご挨拶をいただきました。1日がかりのイベントですが、今の小学校では、「川に近づくな」教育を行っており、親も川の怖さが分からない状態です。そういった中、親子で川の安全学習と共に、炭焼き体験、魚のつかみ取り、魚の解体学習等も行っています。

(11) 第2回“多摩川酒蔵街道”のキャンペーンについて (9/1～) 【資料10】

- ・ 【資料10】をご覧ください。この秋のチラシになります。昨年秋に对外公表し、大きな反響がありました。今回はチラシを少しリニューアルしています。JR東日本八王子支社さんと連携し、チラシ2万枚のうち9千枚を、八王子支社管轄の32の駅に設置してもらいました。また、大多摩観光連盟さんが発行する大多摩四季報にも広告を掲載していただきました。はとバスさんでも商品化されました。去年もツアーが8回催行され、のべ290人が参加されたそうです。この数字は、ヒット商品の部類に入るそうです。今年も秋の中核商品として11本販売するそうです。次のページはJRさんのお座敷列車ですが、今年

6月に開催され、120名が参加されました。お座敷列車の中で多摩の地酒5種飲み比べができるというのが非常にうけたそうです。酒蔵見学の前に酔い倒れた人もいたそうです。また、「青梅・五日市線の旅」パンフレットの中でも多摩川酒蔵街道が紹介されています。また次ページは、お座敷列車の様子が掲載された新聞記事となっています。本件につきまして、今回の“多摩川酒蔵街道”のキャンペーンにあたり、5蔵を取り纏めていただいた、小澤運営委員より一言お願いします。

(小澤運営委員)

東京には酒蔵が9蔵あり、そのうち5蔵が西多摩に集中しています。西多摩は東京の酒処とうたっても間違いではないだろうと思います。以前は、「酒蔵はお酒を作る工場である」という認識だったと思いますが、最近は文化的な意味も含めて観光施設であると、認識が変わってきています。そうは言ってもまだまだ皆さんに存在を知られていませんので、東京の酒処が西多摩に5蔵あるんだということをPRし、地元の方にも大きな資産であると感じてもらいたいと思います。今後も地域の発展に寄与できるよう、頑張っていきたいと思います。

(12) 東急百貨店より第6回「ココエコチャリティー」の寄付金贈呈 (9/29) 【資料12】

- ・ 【資料11】をご覧ください。平成27年9月29日、株式会社東急百貨店本社にて、今年も東急百貨店のココエコチャリティー・イベントによる売上金の一部432,516円が、当フォーラムに寄付金として贈呈されました。因みに贈呈式には、細野会長にご出席いただきました。なお、いただいた寄付金は、「多摩川一斉水質調査」などの多摩川環境保全活動に役立てていきます。

(14) 第8回・たまりパー50キロ命名記念・RUN&WALK開催 (10/4) 【資料13】

- ・ 【資料13】をご覧ください。10月4日に開催された「RUN&WALK大会」には、大田区民有志をはじめ地元の中学生在が総勢70名参加し、大田区の丸子橋を一斉にスタートしました。フォーラム事務局も、タスキをつなぎながらゴールの羽村市役所を目指して激走しました。なお、イベント当日に集まった桜の植樹募金は、後日改めて大田区から当フォーラムに贈呈される予定です。

(15) 「東北・桜サミット開催」に関する記者発表 (10/5) 【資料14】

- ・ 【資料14】をご覧ください。「多摩川フォーラムでなぜ東北なの？」と思う方もいらっしゃると思いますが、本日はじめてご参加される方もいらっしゃるので、経緯等詳しく説明させていただきます。そもそも、多摩川フォーラムの活動が軌道に乗ってきた時、東日本大震災があり、当フォーラムとして、どのよ

うに応援出来るのか、部会や運営委員会で考えたところ、「多摩川夢の桜街道」の東北版として、東北の桜に注目し、「東北・夢の桜街道」を作りました。これを発表して4年半が過ぎ、お陰様で桜街道自体は評判も良く、去年は観光庁がインバウンド対策として、台湾の地下鉄にラッピング広告を施した6両編成の「東北・夢の桜街道号」を走らせました。結果的には台湾のお客様が東北にいらっしやったようで、観光庁の中でも「東アジアでは春の桜がキラコンテツ」であると認識され、現在に至っています。しかし、昨年から「地方創生」の話が出てきて、全国各地の自治体が申請対象ということで、全国が盛り上がり、「東北復興」というテーマ自体が地方創生の流れの中で埋没してしまいました。私どもとしては、やっている方向性は正しいと確信しておりますので、なんとかもう一度存在感を出したいということで、「東北・桜サミット」を開催することになりました。地方創生の場合は、自治体が申請するので、最大でも県単位ですが、我々協議会は6県全部なので、我々が推進している「桜街道」は、地方創生の枠組みでは出来ないのです。それであれば、民主導で、地方創生に関係なく実施していこうということで、東北6県の知事・副知事クラスを対象にお声掛けをして、サミットを開催することになりました。これまでの「桜街道」の総括と、今後の発展性について議論する場になります。ただ、桜についてのみ話をするのではつまらないので、今話題にしているのは、「東北酒蔵街道」です。先ほどご紹介があった通り、「多摩川酒蔵街道」は昨年スタートし、JRのお座敷列車が走るほど大ヒットしていますが、それと並行し、東北についても「酒蔵街道」をやろうと考えました。春の「桜街道」、秋の「東北酒蔵街道」として考えております。酒蔵と紅葉と温泉を絡めて東北を巡っていただき、「旅で東北を支える」復興支援ということになります。この「東北酒蔵街道」をサミットで発表する予定です。震災の風化が進んでいるものの、幸い、協議会に関しては会員が増える一方で、今年度だけでも7先（外務省、観光庁、日本政府観光局、KADOKAWA、東京海上日動火災保険、日本政策投資銀行、東北六県商工会連合会）も増えています。サミットの中では、「津波そして桜」という映画も上映する予定です。この映画は、アメリカの2012年アカデミー賞短編ドキュメンタリー部門にノミネートされた、40分ほどの感動的な映画です。イギリスの女性監督ルーシー・ウォーカーさんが、日本に取材に行く予定のところ、震災のため取材を一旦あきらめました。一念発起し、自らが取材に行かなければならないとの決意のもと、東北に足を踏み入れました。当初は暗澹たる状況でしたが、1ヵ月経つ頃、被災者の顔に明らかに変化があったそうです。多少の明るさが戻ったということです。何故かと聞いてみたところ、「折れた桜の木に花が咲いた」「海水に浸かった桜の木に花が咲いた」ということで、被災された方は桜に気持ちを寄せて、我々

も頑張ろうと立ち直りを見せたということです。外国人は日本人と違い、桜の文化が良く分からないので、「何故それほど桜に影響力があるのか」ということで、京都の御所の桜を整備している桜守にもインタビューしたところ、日本では桜が精神文化を形成していて、別れの3月、出会いの4月に咲く桜が、いかに日本人の心に宿っているか、また、ただ咲くだけではなく、散る姿も日本人の潔さを象徴しているとして、監督自身が感動し、映画を制作したということです。映画の前半には津波の映像が流れますが、後半は日本人の桜に対する憧れや文化を通して被災地再生の希望を繋ぐようなストーリーになっています。それを観ると、「百聞は一見に如かず」ということで、まさに何故我々が東北を桜で応援しようとしているのかが分かる映画となっています。桜サミットは3つのパートで構成されていますが、サミット終了後には「東北酒蔵街道」のオリジナル・パッケージ入りの酒を販売したり、試飲したり、交流会も開く予定です。先ほど「春の桜、秋の酒蔵」と説明しましたが、他の季節については、「四季感動の東北往還道」というネーミングで、さらに深掘りしていく予定です。夏は「東北祭り街道」、冬は「東北雪見街道」で、四季を通じて東北を応援していく方針です。今後、インバウンドを想定すると、ひとつの季節に感動してもらえれば、他の季節もPRし、日本の四季を東北で色濃く体験していただこうと考えています。シンポジウムでも、そういう話を盛り込んで議論していく予定です。「東北酒蔵街道」に参加する酒蔵を募集したところ、80蔵集まりました。一年毎に参加蔵を増やし、さらに層を厚くしていきたいと思えます。協議会には色々な企業も参画しており、「東北酒蔵街道」をパック商品にしてコンビニや道の駅で販売できないかという話も出ています。桜にしても酒蔵にしても、日本全体で共有できる、クールJAPANのオーソドックスなアイテムになりうる案件ではないかと思えます。また、多摩川フォーラムからスタートした話ではありますが、東北で成功例が出てくれば、多摩川の桜街道と酒蔵街道もさらに拡充していこうという話になるかもしれませんので、相互に影響を与えつつ、多摩川フォーラムと協議会がさらに発展していけるように、この運動を進めていきたいと思えます。開催地は山形県の南陽市で遠いのですが、参加したい方がいらっしゃれば、事務局までご連絡ください。

(17) 第7回・美しい多摩川クリーンキャンペーン開催 (11/7、11/14) 【資料15】

- ・ 【資料15】をご覧ください。美しい多摩川クリーンキャンペーンのチラシです。第1回目は5団体からスタートし、6回目となる昨年度は25団体が連携団体として名を連ねています。今年度は、御岳登山鉄道株式会社様、株式会社キャリア・ママ様、富国生命保険相互会社立川支社様が新たに参加される予定です。なお、ポスターにつきましては、今月中に各連携先に配布す

る予定です。

(18) 第8回・多摩川子ども環境シンポジウム開催 (12/5) 【資料16】

- ・ 【資料14】をご覧ください。今年は、現在のところ、8組が確定しております。最終的には10組を目標に、各参加団体と調整中です。

(19) 御岳・冬物語開催 (12/11) 【資料17】

- ・ 【資料15】をご覧ください。こちらは本年度の新規事業で、これまでに皆様から様々なご意見をいただきました。その中で実施可能なプログラムを検討し、平野副会長との日程調整を経て、このような形で第1回目をスタートすることとなりました。お昼時にお集まりいただき、御岳山の宿坊「御岳山荘」で「多摩の物語」の語り会を実演していただきます。その後、御岳の御師料理を堪能していただきます。11月16日から受付を開始しますので、お早めにお申込みをお願いいたします。経過報告は以上です。

(藪田部会長)

事務局からの経過報告で、ご質問、ご意見などございますか。私のほうで気になったのは、多摩川の教育河川事業で、「炭焼き体験と水辺の交流会」です。“学校では川に近づくなと教えている”ということに驚きました。福岡県の遠賀川で調査をした時も、やはりそういう事があり、何故近づいたらいけないのか聞いたところ、川自体も危ないのですが、川のサイドに道路があり、車がスピードを出して危ないということがありました。学校で“川は危ない”と教えているとなると、川の本当の姿を知ることができないと思います。正確な知識を知ることが重要だと思うのですが、学校側にどう働きかければ良いのでしょうか。

(事務局)

私の子どもが中学生の時、学校からそう教わったようです。親としてビックリしたのですが、最近の川は、不良の子が溜まり場にしていて、隠れて煙草を吸っているケースもあるようです。今は親も含めて、川の何が危ないかを知らない人が多いです。山崎教育文化副部会長もおっしゃっていますが、サンダルが川に流され、それを取りに行くと大人も流されてしまうそうです。ですから、サンダルが流されたら子どもを叱ることはしないように、と話しているそうです。「炭焼き体験と水辺の交流会」は、まさに親子で参加することに意義があります。学校側に働きかけるということよりも、まずは当フォーラムで出来ることから実践しています。

(藪田部会長)

有り難うございました。他にご意見などありますか。多摩川酒蔵街道についてですが、お酒を飲めない人にも楽しめる策はあるのでしょうか。

(小澤運営委員)

うちにいらっしゃる方は基本的に飲みに来る方なのですが、ご夫婦でいらっしゃって奥様は飲まないとか、家族で来て大人は飲むけど子どもは飲まないとかというケースはあります。そういう方々も含めて一日楽しめるような多摩川沿いの環境は整備されていると思います。うちに来る方は、御嶽駅や軍畑駅で降りて、川沿いの遊歩道を散策してから飲みに来る方が多いです。飲むだけでなく、自然と親しむ癒しの空間も提供できていると思います。

(藪田部会長)

有り難うございました。他にご意見などありますか。

(藤井様)

私は不動産関連の仕事をしているので、「不動産東京」という会報が届くのですが、東京都で昨年12月に策定した「東京都長期ビジョン」において、2020年の東京オリンピックを境に、徐々に東京都の人口が減っていくらしく、どうすれば良いかを東京都が考えました。結論から言うと、今までのような、多摩地区であれば八王子や立川を中心とした都市から「拡散型」の地域構造では駄目で、中核都市を中心に、基幹的な公共交通沿いに生活拠点や生活中心地の形成を目指す「集約型」の構造にしなければならぬということです。人口減少と急速な高齢化が進む中、東京が目指す都市構造は、「拠点的な市街地を再構築し、駅などを中心に都市機能を集約させた集約型地域構造(=コンパクトシティ)」です。私がビックリしたのは、想定される多摩地区での核都市として、八王子、立川や町田と共に青梅が入っていることです。長期ビジョンに青梅が入っているということは、良く解釈すれば、多摩川フォーラムの活動が東京都の耳に入り、「頑張れよ」ということかもしれませんし、青梅を多摩地区の観光の中心に持って来るといったことなのかもしれません。集約型の都市構造において、東京都では、多摩ニュータウンなどの大規模団地の再生にも力を入れていくそうです。すでに多摩ニュータウンでは、団地再生の成功事例(諏訪団地)があり、2013年10月にマンションとして生まれ変わった諏訪二丁目住宅は即日完売し、かつて高齢化の進んでいた団地が、多様な世代が暮らす街になりました。これからは青梅でも色々と変わっていくと思います。2027年には、多摩地区にリニア新幹線が開通します。モノレールについても、上北台から箱根ヶ崎、多摩センターから町田も延伸される予定です。また、横浜からは、ブルーラインがあざみ野で止まっていま

すが、新百合ヶ丘まで延伸されれば、人の流れはガラッと変わりますし、多摩地区はどんどん活性化されると思います。

4. 意見交換（副部会長）

（1）東京都の事業案件（多摩川カヌー駅伝等）の取り組みについて

（藪田部会長）

意見交換に入ります。東京都の事業案件（多摩川カヌー駅伝等）の企画案の年数はどうなっていますか。

（事務局）

27年度のモデル事業ですので、来年度も実施するという事は保証されていますが、東京都観光部では、これを種火として、2020年に向けて、拡大できるものであれば拡大していきたいとのことです。

（藪田部会長）

ということは、これが成功するかどうかがとても重要であるということですね。

（事務局）

そうです。ただし、季節が3月なので、行政の予算制度の限界なのですが、本来であれば夏に開催したいところです。

（藪田部会長）

地球温暖化を進めないといけなくなりますね（笑）。これについて、ご質問、ご意見はありますか。

（サンケイリビング新聞社 石河 様）

質問です。カヌー駅伝に出場される方はどういう方を想定されていて、どれくらいの規模を考えていらっしゃいますか。

（事務局）

正式にはこれから決めますが、多摩川の堰（小作取水堰、羽村取水堰、昭和用水堰、日野用水堰）に関わる市が6市あるので、6市の市民の対抗戦にしたいと思っています。4区間あるので、少なくとも4人一組で、20～30チームを想定しています。市だけで組成できない場合は、その他のチームも組成したいと思います。

(藪田部会長)

他にご質問、ご意見はありますか。

(福本 様)

似たような内容で、より小規模な案件があるのですが、事務局に相談を仰いでもよろしいのでしょうか。

(事務局)

質問に関しては事務局に言っていただいて構いません。

(2) 美しい多摩川フォーラム・10周年（平成29年度）記念事業について

(藪田部会長)

本件について、今日はざっくりばらんな意見をいただければと思います。何かございますか。

(小澤運営委員)

うちは創業300年の時に、植樹を行いました。多摩川に関わる色々な市町村や企業さんがいるので、同時に木を植えてはどうかと思います。

(藪田部会長)

有り難うございます。他にご意見はありますか。

(石井アドバイザー)

せっかく多摩川がきれいになってきているので、それを上手く見せる方法はないかと考えていたのですが、東京都や河川事務所等に働きかけ、土木遺産でもある堰に魚道を作ってもらい、アユが遡上する姿を横から見えるようにしたらどうかと思います。山形県の村上市や北海道では、堰の断面が見えるガラス張りにし、魚が遡上する姿が見えるようになっています。自ら作るのは大変なので、「見える魚道」を作ってもらえるように運動し、それを記念事業にしたらどうかと思います。

(藪田部会長)

有り難うございました。素敵なアイデアですね。他にご意見はありますか。

(福本 様)

岩蔵温泉には、ホテルが舞う場所が何ヵ所かあります。その時期にマイクロバスを仕立てて、地元旅館のランチも楽しめるツアーを企画しています。それを記念事業に

するのはどうでしょうか。

(藪田部会長)

有り難うございました。時間が迫ってきましたので、宿題とさせていただきたいと思います。

5. 総括・閉会（部会長）

(藪田部会長)

先ほど、東京は元気であるという話がありました。元気な東京の中で元気がなかったらどうするの？というご意見だと思います。確かに日本全国を見渡すと、2040年には人口が50%になる地域もあります。そんな中、安倍政権は、人口を地方に移行させようとしています。東京に住んで幸せだという街づくりにしていくために、この会はあるのだと思います。それでは、本日の地域経済活性化部会を終了します。有り難うございました。

以 上